

社団法人日本福祉車両未来研究会

【ニュース】 2017_12_07

子供用車いす「温かく見守って」ベビーカーと間違われづらい思い...

大阪の母親、独自マークで啓発へ



病気や障がいのある子供たちが使うバギー型の車いすに、誤解から冷たい目を向けられることがある。外見が似ているベビーカーと間違われ、必要なサポートを受けられなかったり、たたくように注意されたりするといい、傷つく保護者は多い。移動に欠かせない子供用車いすの存在を知ってもらおうと、重い障がいのある娘を持つ大阪の母親が独自のマーク入りのキーホルダーやポスターを作成し、啓発に乗り出している。

「ももちゃん、ご機嫌だねえ」。本田さん（36歳）＝大阪市＝が、子供用車いすで足をバタバタと動かす長女の萌々花（ももか）ちゃん（5歳）に笑顔を向ける。目立つところには、白地にピンク色で車いすに乗る子供のイラストが描かれたゴム製のキーホルダー。「このマークが、難病や障がいのある子供たちの外出を温かく見守ってもらえるきっかけになれば」と期待する。

萌々花ちゃんは生後約半年でてんかんの一種「ウエスト症候群」と診断された。重度の身体・知的障がいがあり、一人で座っていることができない。

バギー型の子供用車いすは、姿勢を固定できなかつたり、首がすわっていなかつたりする子供たちの身体状態に合わせて、背もたれの角度などを調整できるサポート機能がついていることが特徴で、座面の下には呼吸器なども積むことができる。ただ車体重量は10Kg～数十Kgあり、折りたためないものも多い。10年～15年年程前から増え始めたが認知度は低く、ベビーカーと間違われることがしばしばだ。

本田さんには苦い経験がある。駅で乗降用のスロープの設置を頼んだところ、駅員から「ベビーカーはスロープなしで乗れる。補助はできない」と断られたといい、「ショックでした」と振り返る。萌々花ちゃんの闘病や介護の様子など綴ったブログには、外出先で同じような思いをした保護者から数多くの声が寄せられた。「狭いからたたんで」「抱っこしたら」「大きな子はベビーカーに乗せずに歩かせないと」－。病院でよく顔を会わせる母親仲間は「また（苦情を）言われた」と泣いた。

「マナーのなっていない親という捉えられ方をされると、子供の闘病でつらい思いをしている親はさらにしんどくなってしまう」と本田さん。「子供用車いすの存在を知ってもらいたい」と平成27年9月、一般社団法人「mina family」を設立した。

役所や病院、商業施設などに掲示してもらうために啓発ポスターを作成。同じ悩みを抱える親たちが地元で紹介したいと口コミで広がり、配布枚数は全国で約 7,000 枚に達した。今春にはクラウドファンディングを活用し、独自のマークを入れた車いすに取り付ける 4 種類のキーホルダー（税抜き 700 円～1,200 円）を製作。問い合わせが相次いでいる。今後は、公共施設や交通機関などの職員向けの勉強会を企画したいという。

「子供用車いすの利用者だけでなく、外見では分からないけれど内臓疾患などで配慮が必要な人はたくさんいる。そういうことを知ることによって、誰もが暮らしやすい社会になるのでは」と本田さんは話している。

(産経新聞より)

////////////////////////////////////

〒460 - 0006

愛知県名古屋市中区葵 1 丁目 27 番 3 号

染木第 2 ビル 4 階 403 号室

社団法人日本福祉車両未来研究会

電話 052 - 937 - 2941

FAX 052 - 937 - 2940

Mail info@294mirai.com

<事務局 吉川 剛>

////////////////////////////////////

会員企業名
〒239-0842 横須賀市長沢6丁目30番4号 有限会社ヤマヨク保田商会 電話 046(849)3210 FAX 046(849)7147